令和７年10月発行

地域おこし協力隊通信

丹波山村
地域おこし協力隊

お試し協力隊

vol.30

地域おこし協力隊との交流を通して協力隊を知る

丹波山村地域おこし協力隊サポーターズ TABANET.が主催する「お試し協力隊」が令和7年9月20日（土）から21日（日）の1泊2日で開催されました。このイベントの目的は、「いつか田舎で暮らしてみたい」「地域に貢献する仕事がしたい」と考える移住を検討する人に「地域おこし協力隊」という選択肢があり、実際にどのような活動や暮らしているかを体験してもらう為のイベントです。

東武トップツアーズ株式会社の協力の元、ツアーの募集をかけたところ、定員5名の3倍以上の応募があり、抽選で選ばれた方々が丹波山村役場に集まりました。
参加者は、人口増加の背景や、村に若者が集まる理由を現役隊員や役場関係者から聞き、子ども支援・教育、空き家活用、情報発信・PRといった、現在進行形で村が取り組む課題について理解を深めました。

今回の企画を担当したTABANET.
西山 寿恵さん

普段は丹波っこクラブを中心に子どもに関わる活動をする集落支援員をしています。今回のイベントを発案し、プログラム作成やアテンドを担当しました。メディアが取り上げる協力隊の姿だけでなく、リアルな協力隊の姿を志望者に伝え知って欲しいと思ったのがイベントのきっかけです。
丹波山村を選んだ協力隊員に悔いのない活動をしてもらうことが私の願いです。

歴史・文化を知る

丹波山村郷土資料館を訪れ、協力隊OGの寺崎さんの説明を受けながら丹波山村の歴史や風土について学びました。
地域を知り、文化をしることは、協力隊員として重要な要素の一つです。

現役、OBOGとの懇親会

初日の夜には、現役の協力隊員とOB・OGが集まり懇親会を開催いたしました。
参加者からは、日頃の生活や活動に関する具体的な質問のほか、地域での暮らしにおける率直な疑問や不安について、ざっくばらんな質問がありました。

自然を体感！

翌朝は少し早起きしてグリーンロードを散歩し、丹波山村の自然を体感。
ローラー滑り台まで歩き、日本一の滑り台を楽しみました。山や坂の多いこの土地で暮らすことを自らの足で実感してもらいました。

協力隊員の軌跡を辿る

最後は鴨沢文岳館を訪れ、現在活動する協力隊員の活動の記録を見聞しました。
外から見た丹波山村の概要だけでなく、ここで協力隊員になることがどのようなことなのか、改めて参加者の皆様に考えて頂きました。

若者が地域課題に挑んだ2週間
実践型研修「ローカレ」今年も開催

令和7年9月1日から14日の2週間、丹波山村で「TURNS LOCAL COLLEGE（ローカレ）」が昨年に続き開催されました。全国から集まった大学生たちが、村の課題解決に繋がる4つのテーマから新たなビジネスプランの企画・提案に取り組みました。

コーディネーターを務めた
内田 唯（1年目)さんのコメント

昨年ローカレで丹波山村を知り、今年協力隊として移住しました。今年もこの地でローカレが開催できて、大変嬉しく思います。参加者の皆さんも丹波山村の魅力を肌で感じ、「また来たい」と村を後にしました。このような素晴らしい体験ができたのは、2週間にわたり多大なご協力をいただいた村民の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

2025

ターンズ

TURNS ローカル カレッジ

取材・編集 初田 登

キックオフミーティングで参加者一人ひとりに木下村長から任命状が手渡され、4つのチームに分かれました。

1. すべり台チーム
2. 林業チーム
3. 観光推進機構チーム
4. 麦芽粕チーム

麦芽粕チームは、多摩川源流の丹波川を視察し、クラフトビール造りに不可欠な水資源の重要性を学びました。その後、鴨沢地区にあるクラフトビール醸造所「ウルブス ブリューイング」を訪問し、製品化のヒントを得ました。

中間発表でリサーチの甘さを指摘される

プログラム開始6日目、村役場で中間発表が実施されました。各チームの企画は、データの不足や根拠の薄さが目立ち、事業者や職員から厳しい指摘を受けました。事業に不可欠な現場でのリサーチやヒアリングによる「現場感覚」の不足が浮き彫りになりました。

落胆した学生たちは、この意見を糧として直ちに改善ミーティングを行い、テーマへの取り組み方や仔細なデータ収集方法を見直すなど、改善を模索し始めました。

学生を支えた村の人たち

学生が宿泊した交流促進センターでは、協力隊員や事業者が食事を振る舞い、試作品作りのために伝統的な草木染めを教える人もいました。

地域の人々のサポートを受けながら、各チームは最終プレゼンテーションに向けて、苦労しつつも熱心にプランを練り上げていきました。

集大成の最終プレゼン

最終日の14日、各チームは村役場で最終プレゼンに臨みました。短い期間でのプラン提案に苦戦しつつも、中間発表時から内容を大きく磨き上げ、力の限りを尽くした発表となりました。優勝したのは麦芽粕チーム。木下村長より賞状が贈られ、2週間に及ぶローカレは終了しました。ご協力頂きました皆様、本当にありがとうございました。